

第8回旧吉田茂邸再建検討委員会結果概要

平成22年12月22日（水）午後7:00～8:20 大磯町役場本庁舎4階第1会議室において、第8回旧吉田茂邸再建検討委員会を開催しましたが、会議の概要は次のとおりでした。

平成22年12月24日

〔出席者〕

（委員長）中島遺産保存会副会長

（副委員長）岩崎氏（学識経験者）

（委員）土方区長連絡協議会会長、三上区長連絡協議会副会長、鈴木観光協会副会長、大澤観光協会副会長、吉川中丸町内会長、宮代ガイドボランティア協会会長、岩井教育委員会委員長、関野氏（学識経験者）、大倉氏（学識経験者）、永寫氏（学識経験者）

（事務局）5名

1 町長あいさつ

みなさんこんばんは。お忙しい中お集まりいただきましてどうもありがとうございます。

年末でご多忙の中ですが、来年の3月31日、そこが一応資金のある一定の期間ということは、既にご存知だと思います。

昨年3月22日は、名誉町民でございます吉田茂総理の邸宅が焼失しまして、もうすぐ2年。

中島委員長には、本当にご苦勞いただきまして、多々いろんなことを、町、県、委員の皆さま、それから町民の皆さまとお話をしていただきましたが、現況はなかなかご理解いただけない面もございまして、その資料の中にございますような結果が今出ております。

しかし、私たち大磯町民の総意としましては、何らかの形で県にお建ていただくわけではありますが、希望というものをその中に汲みしていただきたい。町一丸となりまして、今後のことを進めていかなければならないと、そういう思いでございます。

実はこの間、議長、副議長、中島委員長、岩崎副委員長、プロジェクト

検討委員会、大磯町の事務ですが、と私その3者が集まりまして、今の現況を踏まえまして、もうあとわずかな時間の中で一丸となってやっていると、まあそういうことが皆の中で燃え上がった、そういう風に私は感じております。

本当にやっていかねばならない。そういう思いがございました。今日はそういうことを踏まえまして、どうすれば町の皆さまにこういうことをきちっと伝えて一丸となれるのかお考えいただきたい。その場で申し上げたことは、これまでの経過を町の西と東でしょうか、国府の方、大磯の方で小学校の講堂等を使いまして、皆さまに最終的に、県と町が合意したような形のものを、こういうものがおおよそ出来るんですよということをご提示し、皆さまがそれぞれの立場で理解していただいたうえのものを、町民の方に考えていただき、意志を明確にいただき、その公園の中に建つものに対して意思表示をしていただこう。そういうふうを考えております。

是非、今日は十分にご議論をいただき、その辺りをよろしく願いいたします。

今申し上げたように、全町民に語りかける場は、町としてつくってまいります。小学校の講堂、両方を使いまして、それは皆さまにお願いしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 委員長あいさつ

中島でございます。しばらく委員会を開催してございませんでしたので、久しぶりに皆さまにお目にかかれて誠にありがとうございます。

みなさまご期待になかなか添えない点多々あったかと思いますが、それなりに動いております。後ほど、事務局ご報告があると思いますが、区長会の方のご尽力によりまして、各町内説明会を開催した際には、事務局とともに24地区をまわらせていただきました。

町長のあいさつにもございましたが、なかなか簡単には物事進まないものでありまして、皆さまのお力とお知恵をいただき、良い結果が生まれまますように、願っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

4 議題

(1)大磯町旧吉田茂邸再建に伴う町内説明会の開催結果について

(委員長)

去る8月29日(日)の北下町福祉館を皮切りに、町内24地区の説明会を行った件について、事務局よりご報告をお願いします。

(都市計画課長)

【資料1】に基づき説明。

大きく分けて3つの点について説明してきました。

一点目は、旧吉田茂邸再建に向けた取組みと現状について

二点目は、3月21日にテレビ神奈川で放映された「思い出の吉田茂邸」という20分のビデオをご覧いただきました。

三点目は、再建に対する要望の署名についてご説明しました。

説明時間は1時間で、その後、30分から1時間かけて質疑応答いたしました。

「資料1」にございますように、8月29日北下町から11月20日茶屋町の延べ参加者数は295人。1地区当たり平均12.3人という状況です。質問や意見の内容は、旧吉田茂邸再建について、旧吉田茂邸再建基金の活動について、署名について、旧吉田茂邸再建に伴う町内説明会について、その他という分類に分けて整理しております。

細かい内容は後ほどご覧いただきたいのですが、様々な質問、激励、再建を望んでいる。厳しいのではないか。といった声がありました。

(委員長)

総じて出席してくれる人数少ないことが、正直言ってつらく感じました。

副委員長出てくださいましたけれども、みなさんはお忙しいということもありました。意見の内容については地区によって随分違いました。前の通りの復元を前提とした意見であったり、そうではなくて全く違うもの、記念碑的なものを考えている意見と、さまざまありました。

また、旧吉田茂邸の土地が、既に県が買収して県立公園として整備が進んでいることもご存じない方がいました。

折角の機会ですから。委員の皆様、何か御意見ありませんか。

(委員)

募金したいと思っている人でも、チャンスを逃して未だしていない方がいると思う。そういう人にどうにか協力をお願いしたい。また、用紙持って行っても、実際には銀行に足を運ぶのに二の足を踏む状況もある。微力ながら、募金をお預かりして領収書を出すような取組みもしていきたいと思う。

(委員)

24地区説明会をまわってみて、委員長のお話にあったが、都市計画課長、実際にまわられてどんな感想を持ったか。

(都市計画課長)

最初の頃は、説明会が終わると同時にではいくらずつ集めようかといった声もあり、積極的な声もいただいた。一方で、他の地区では、燃えてしまったのだから礎石広場でも、そういう所もあるしといった意見が出るなど、地区によって温度差があった。

古くから住んでいる方の中には、吉田茂総理を直接ご覧になった方、葬儀に出席した方、海岸散歩をしている姿を見た方もいて、そういう人の話を聞くと、実際に大磯で生活していたのだな、ということがお分かりいただけと思うし、そういう人の話には説得力があった。

吉田茂は、東京で仕事して、自宅はこちらにあっても泊まりに帰ってきたということもあり、大磯町との関わりが限られていた。そのため、あまり人目に触れない。建物も、外観で見えることはできても、中は見られない状況だったことも重なって、そういう人が体験を述べてくれる機会も少なかったのが残念だった。しかしながら、そういう人の話を聞ける時は、非常に関心を引いたように感じた。

(委員)

七賢堂、整備中の遊歩道、銅像を、そろそろ町民の方にどんどん見せてあげたらどうかと思う。

(委員)

完成図がないので、目に訴えることができない。完成図を示してやれば前進すると思う。

(委員)

月京には吉田邸に出入りしていた植木職人いたこともあり、月京会館には昭和35年に児童館を建てたことを記念して吉田茂からもらった寄文がある。そういう面で馴染みがある。

(委員)

町内説明会の質問・意見が整理されているが、回答はどういう形だったのか。

(都市計画課長)

すべてについて、回答をしている。

(委員)

町内説明会質疑等報告を読ませていただいて、同じような内容ですとか、いろいろな質問をされているわけですね。これを更に折角ここまできているわけですから、そういうことを言っているのかもうちよっと詰めて何となく町としての方向性、そういったものを見出していく。こういうものを更に具体的に再建イメージ図として明確に出して見たらどうかなと思う。

再建イメージ図をもとに県とイメージ図を共有させていく。そういうことをしていかないと前に進まない。寄付の問題もあるけれども、それとあわせてそういったイメージ共有を進めたらどうかなということ。例えば来年度の予算の関係でいうと、国の一次要望は6月頃。それまでに県の方に言っておかないと、また1年延びていってしまう。だから、できるだけ早めにイメージ共有して、町としてはこれをお願いしたいというようなことを、5月の連休前までに出しておかないと、1年2年伸びてしまうかなと思う。

それには出来るだけこれを小委員会ですとか具体的に詰められる、そういうものがあれば、イメージ図を完成させることができるのかなと思うがいかがでしょうか。

(委員)

私は永嶌委員の意見に賛成です。焼失してから1年8ヶ月やっておりますけれども、なかなか具体的になってこない。やはり底辺を広げていかないといけないと思います。底辺とは町民の皆さまからの浄財をいただくということで、具体案をどんどん出していかなければ、進まないと思います。これをやるには、今永嶌委員のお話のように、形をつくって、事務局と委員長と一緒に形づくりをし、将来にもって行かなければいけないと思います。

(委員長)

それでは、本日まだ報告しなければならないことが残っておりますので、そちらを先に報告したいと思います。議題2ですが、「大磯町旧吉田茂邸再建基金の状況について」事務局より報告をお願いします。

(都市計画課長)

「資料2」をご覧ください。下段の表【累計】ですが、平成21年7月1日から平成22年12月14日の532日間で、納付金額45,182,072円、募金箱で1,763,667円と、合計で46,945,739円、これに町の積立金10,000,000円と利息額をあわせて56,965,992円となっております。

件数を見ますと、916件ですが、募金箱の欄は傍線となっております。これ

は募金箱に入れた方の人数を数えていないためですが、行事等で募金箱の件数と金額を調べますと、募金箱への募金額は1人100円というのが多い状況で、概ね17,600人の協力をいただいているという状況が推察されます。したがって、合計で約18,500の方にご協力いただいているのかなと受け止めております。

なお、要望書の署名については、募金箱への協力者もいることを数字として県に伝えられないものかということで、10月から区長連絡協議会の中で回覧形式で行いたいとのことで調整してきましたが、新しい町長の方向性を確認したうえで進めたいということで、再度お願いしたいということになっている。

(委員長)

県外の272件には、北は北海道から南は沖縄まで協力をいただいている。

また、長崎の特定のご婦人からは毎月寄付されていることも無視できない。そのような方々のご厚意で500万円以上の金額になっている。

また、これは言って良いものかどうか分からないが、県の副知事からもポケットマネーでの寄付や、庁舎の自動販売機を通した寄付もある。ただ、説明会では、これだけのお金で再建できるのかといった意見もいただいていた。

県も、リーマンショックで税収が1年で1,000億円も下がる時代、おいそれと出してくれるかな。ということが正直である。

県でも再建イメージの図を作っているが、それが分かるような形にしたい。先ほど永島委員から町の再建イメージ図の話があったが、町としてのまとまった意見を県に示すということは結構なことと思う。

ただし、昨年7月に町長・議長・私とで副知事にお渡しした要望書がある。当時の委員一人ひとりがサインした提案書を添えたものだが、県の方では、その要望書の内容をオール大磯町としての意向と捉えている。ですから、その内容とうまく整合させる必要もあるし、委員会としてもそのために努力する必要がある。そして、寄付をお願いするのでは町民に対してつまびらかに説明したうえでお願いしたいと思う。

また、区長会に協力いただきながら、署名の回覧とともに、寄付についても改めて一緒に進めて欲しいと思う。

(委員)

次の議題ですが、議題の3「その他」について、事務局より説明をお願いします。

(都市計画課長)

24地区まわりつつ、一番感じたのが、物として説明をしきれなかったこと。心字池からの景観を元の形にして欲しい、できるだけ元通りに再建して欲しいということで要望していると説明してきた。現実的には県の方でも、最低限L字型、というのは西側正面から見た「金の間」「銀の間」を含む部分ですが、その部分は最低限やっていきたいというイメージになっている。ただ、絵がなくて言葉だけでは説明しづらいし、聞いているだけではご理解を得られないという状況だった。

かつて吉田財団が銅像を造るために募った寄付では何億という寄付が集まって、余った寄付金で東京に建物を建てたということも聞いていたので、期待していたことは事実だが、リーマンショックの影響や、対象となる方の高齢化という影響もあったのかと推察している。

ただし、他の募金と比べると全国規模で多数の方からのご協力をいただいております。募金額と再建を希望する人数を伝えることで県に動いていただきたいということで、区長会とも相談してきた。12月の定例会では、新しい町長が決まっていたので、町長の意見を聞いてからということとしていた。町長からは、24地区の説明会には残念ながら295人だけしか参加していただけていない。説明会に参加できていない方に十分に説明できていないので、大磯と国府の2箇所で、24地区に加えて改めて2つの説明会を行い、少しでも多くの町民のご理解をいただいたうえで、それから署名活動したらどうかという再提案がありました。したがって、事務局としてはその方向で考えており、少しでも多くの方の協力をいただいて進めていきたいと考えている。

(委員)

県の検討状況がどこまで進んでいるのか、最終的にどういう姿になるのか。何時までに何ができるのか予定としてでも説明をしないと、ただ寄付してくださいと言っても、熱も冷めている。こういう段階で要望しないと出来なくなってしまう。県立公園ですから、町として要望できるものに限りもあると思うが出来るものやっけていただく。どの辺まで出せるのか、国府と大磯での説明会では具体的に見せてもらえないと難しいと思う。

(政策課長)

町長、副町長、議長、副議長、委員長、副委員長、事務局との打ち合せでもそうした話があった。県の再建イメージ図については、委員として私も出席しているが、検討段階での図面はなかなかオープンに出来ないということであった。ただし、町長とても町民にとってわかりづらいので、どの程度出

せるか、県と交渉してきて下さいということで、今交渉している。そうした中で、L字部分は出せるということを事務レベルでは了解いただけたところなので、確認のうえ委員長に報告し、絵なり目標を出せるようにしていきたい。

県の再建イメージ図を出すということで、大磯小学校、国府小学校で色々な意見を聞きながら、署名活動に進んでいきたい。

(委員)

みなとの整備は県からの投げかけがあって、丸い灯台が四角になったりできるのに、城山公園の件では町民に情報をくれないのはどうしてか。計画は計画として町民に知らせて欲しい。

(政策課長)

予算措置が既にされて、県議会議員への報告も済んで住民説明会を経ながらやっている段階のものとの違いだと思う。吉田邸については土地については購入するというので事業化されているが、建物については県がやるのか、町でやるのかといった段階のものである。町としては技術的な面や財政的な面から県にお願いしたいということで基金集めをしているものであり、どこまで出せるのかは確認のうえで説明する。

(都市計画課長)

公園整備の状況については、町の当初の考え方としては、全面開園の期日にあわせて、募集期間を平成25年3月までに設定した。ただし、それでは長いということで、第一期の募集期間を平成23年3月末に設定しており、第1期の募集金額の状況を見極めて7月に建築についてどうするか判断があると聞いている。庭園の工事は昨年度から着手しているが、今年は外構周りの柵に着手している。2ヶ月前に造園学会の関係で見たときには、心字池から本邸跡地にかけての樹木に刈り込みがされて状況になっていた。ただし、両側、東側竹林などは何も手をつけていない状況。本年度は地下埋設物のために掘り返している状況で、かつ数社が一辺に入って工事しているので、一定期間無理。それが一段落したら検討したい。

(委員)

委員だけでも見せてもらえないのか。

(都市計画課長)

許しを得て日にちが設定できれば交渉したい。

(委員)

基金を建物の再建に充てるのか公園整備に充てるのか混同している方もいる。庭園工事に業者入っているということだが、フェンス幕とか柵のネットに吉田邸の写真を置いて一般の人にも入らせて見せてれば、署名や基金協力の手助けになるのではないか。

寄付については、議員はどうなっているのかという話が出ている。例えば、議員が10万円を募金箱に入れれば良いではないか。そういうやり方とか、やってもら形はできないか。

(政策課長)

一点目については、技術のお話と見学できるかどうかわからない話は話をしていく。2点目の話については、議長、副議長を交えたお話の中でも出た。法的にクリアに対応していきたい意向があり、例えば給与を削減して基金の積む方法ができるならば、手続を踏んでやっていきたいという意向である。ただし、町長は一人の個人意思で給料削減を示せるが、議員は足並みを揃える必要が出てくる。

(副委員長)

3月に議長・副議長と委員長と私とでお話した。ざつくばらんに申し上げると、そちらの職員が出て、寄付して欲しい。寄付の方法は、やり方はいくらでもあるのではないかという、法的にはクリアできるだろうとそういうものを検討して下さい。やる気があればできる筈です。と言った。で、職員の方は、それはできないというように私は受け止めたのですけれども、何か議長・副議長をカバーするようなお話をされた経緯がある。

積極的皆がやるという、議長、副議長にもそういう気持ち、あなた方がやらないと、成功しないよというお話、そのやり方を、今政策課長がおっしゃられたように、町長は削減すると、議会でも多数あれば、それは決まるわけですよ、ですから、そこまで議員さんが腹くくってやってもらなければ、町民から金は集まらない。どんな絵を描いても集まらない。

そういうことを職員からも積極的に提案して欲しい。

あの時はどう見ても、議長、副議長をカバーしているというように受け止めた。

(委員長)

あの時は、あの後副委員長と話をしたのだけれども、中央省庁の関係者と問い合わせしたりして、方法はあるらしいと、その事は実は現職町長にもお伝えした。ただタイミングが、どんな方法でも選挙の前だとまずいということで、ですから新しい町長なら大丈夫。ただ議員さんは選挙を控えていますから、タイミング的に難しいが、検討する価値はある。

(委員)

議長の方から議会の方も正直動いていなかったという話があった。
手法については、タイミングが合えば説明していきたいと思う。

(委員)

大磯地区と国府地区で説明会をやるということだが、今後具体的に基金を募っていくためには、具体的なイメージをつくって説明する必要があると思う。

24地区の説明会出席者が少なかった件については責任感しているが、全町的にいろんな団体含めてPRして説明会やって、ひっくるめてやっていただきたい。

(委員)

小諸市長、区長会会長、議員が訪れて寄付があったが、その方法がとれるなら、吉田財団に寄付してフィードバックしてもらえば良いのではないか。

(副委員長)

寄付の問題については、それぞれの意思もあられることでしょうし、町民のみなさんや公職の人が何とか出したいという気持ちになっていただく。こっから出せ出せの話ではない。だけど、出さない人たちが、町民にお願いするのはおかしいんじゃないですかという逆説が成り立つと思う。そうでなければ、この寄付は進んでいかないと思います。ですから、それはそちらで考えてください。この結果が出たら、みんなで協力してあげましょうよというような形の流れ、ちょっと脅迫めいた話になりますけれども

(委員)

ただ、議員さんなんかは、出したいんだけど公職選挙法によって我々
は出せないんだよと言っている。

(副委員長)

どうしたら出せるかという考え方を、一番接触の多い職員の皆さんが提案してあげるといった形ではないかなと思う。そういう方法考えていかないと、法的にクリアする方法はある。

(委員長)

多分早くしないと、選挙の直前になっちゃうとまずいわけですね。吉田財団寄付するなら可能なのかなどうか、いくつか方法お願いして、それぞれが考えていただく。

(副委員長)

事務局の方で提案してあげて下さいと私は思うのです。それで、議員さんなり理事者の方が判断する内容だと、私は思います。

(副委員長)

それと、町民の皆さんに示すイメージ図や平面図については、町としての考え方をお願いする作業が必要ではないかなと思います。そこで、その作業を誰がやるのか。そういう部分での検討をお願いしたい。

(委員長)

具体的な提案だと思います。この委員会の何人かで一つの作業部会をやっていただく。委員会としての意見、町長の賛同、議会の同意と我々が提示する案に納得していただけるようにしたいと思う。

結果的にうまく乗ってくれる案でないといけない。出すならば大磯町はこうですという1本の柱にもっていかないと、別々の案が出るようなことは絶対避けなければいけないし、昨年7月の要望書の内容と矛盾しないことも必要かと思う。

このようなことを前提として、再建イメージ図を作成し、この1・2ヶ月で進めなければいけない。そのためには、情報を突き合わせるために何人か事務局も絡んでいただいて、議会に持っていく。

どっちにしても、説明会を開くのであれば、具体的なものを出さなければ、聞いている人が納得しない。

これらを前提として、具体的なもの出してやっていく。そういうことでよろしいか。

(委員)

小委員会の名前はどうするのか。

(委員長)

特に組織を設ける必要はない。

(委員長)

それでは、議題3の結論ですが、ここでどなたとどなたに担っていただくとは決められないけれども、オープンに議論していても定まらない。たたき台を用意すれば、考えがまとまってくると思う。1月、2月、3月で吉田邸再建が決まってしまう。

(委員)

440人しかない町民の形ではまずいから、少しでも増やしていかないと外の人ばかりではいけない。

(委員)

郷土資料館からのお知らせで、1月8日から企画展を開催する。「三井高棟と吉田茂～城山荘と如庵、七賢堂の記憶～」の展示。是非足を運んでください。広報1月号にも掲載される。

(副委員長)

作業部会の人選は、委員長指名で決めて良いか。

(委員)

了解

5 閉会

(委員長)

大変建設的なご意見をいただきまして、本日は長時間どうもありがとうございました。